



# 2020年度 第1四半期 決算補足資料

2020年8月6日



#### 企業理念

素材の力を引き出す技術で、  
持続可能で豊かな社会の  
実現に貢献する。

#### 目指す姿

アルミニウムを究めて  
環境負荷を減らし、  
軽やかな世界へ。

#### 価値観

- ▶ 相互の理解と尊重
- ▶ 誠実さと未来志向
- ▶ 好奇心と挑戦心

## 株式会社UACJ

## 1. 2020年度 第1四半期業績

## 2. 2020年度 通期業績見通し

## 3. 新型コロナウイルスの影響と対応

## 4. 構造改革の進捗

# 1. 2020年度 第1四半期業績

## 第1四半期 経常利益 0.4億円（前年同期比 2億円増）

### ■ 数量：前年同期比減

- ・UATH<sup>\*1</sup>（タイ）、TAA<sup>\*2</sup>（米国）の缶材増加も、自動車向けがコロナ影響により減少

### ■ 経常利益：前年同期比 +2億円増

#### ◎ 増益要因

- ・UATH業績改善
- ・TAA業績改善
- ・棚卸評価関係の好転

#### △ 減益要因

- ・経営環境悪化による販売減（コロナ影響/米中貿易摩擦の長期化）
- ・販売減に伴う国内製造所の操業度低下等

# 2020年度 第1四半期業績



(単位：億円)

	2019年度 1Q (A)	2020年度 1Q (B)	増減 (B) - (A)
連結売上高	1,598	<b>1,333</b>	△265
連結営業利益	13	△6	△19
棚卸影響前 連結経常利益	16	<b>10</b>	△5
棚卸影響額	△17	△10	7
連結経常利益	△1	<b>0</b>	2
連結当期純利益	△16	△2	14
Adjusted EBITDA	107	<b>87</b>	△20

※ 連結当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益  
 ※ Adjusted EBITDA：EBITDA - 棚卸評価関係

# セグメント別 売上高・営業利益

(単位：億円)

	2019年度 1Q (A)		2020年度 1Q (B)		増 減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	1,289	24	<b>1,120</b>	<b>10</b>	△169	△14
加工品・関連事業	489	2	<b>394</b>	<b>△2</b>	△95	△4
伸銅品	124	3	-	-	△124	△3
(調整額)	△303	△16	<b>△180</b>	<b>△13</b>	123	3
合 計	1,598	13	<b>1,333</b>	<b>△6</b>	△265	△19

# アルミ板 品種別売上数量



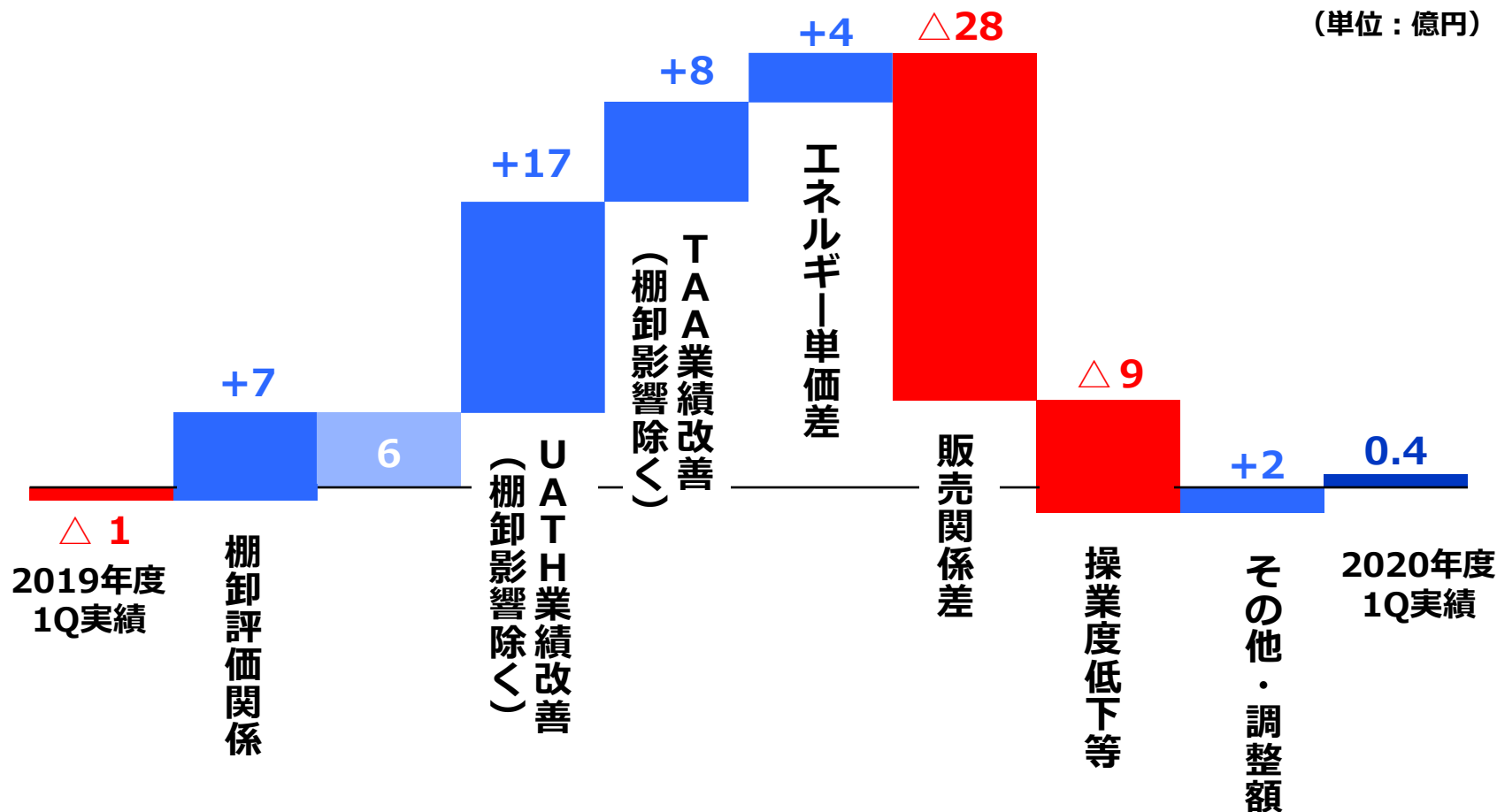
(単位:千トン)

品 種	2019年度 1Q (A)	2020年度 1Q (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	175	<b>191</b>	16
箔 地	11	<b>12</b>	1
I T 材	4	<b>6</b>	2
自 動 車 材	39	<b>22</b>	△18
厚 板	9	<b>9</b>	0
その他一般材	53	<b>32</b>	△21
合 計	292	<b>272</b>	△20
	( 国内市場向け 133 海外市場向け 158 )	( 国内市場向け 107 海外市場向け 165 )	( △26 6 )

# 連結経常損益分析 (2019年度1Q → 2020年度1Q)

△ **1**億円 (2019年度1Q) → **0.4**億円 (2020年度1Q)

(単位：億円)





## 新型コロナウイルス感染拡大リスクに備え、資金を確保したことで有利子負債は増加

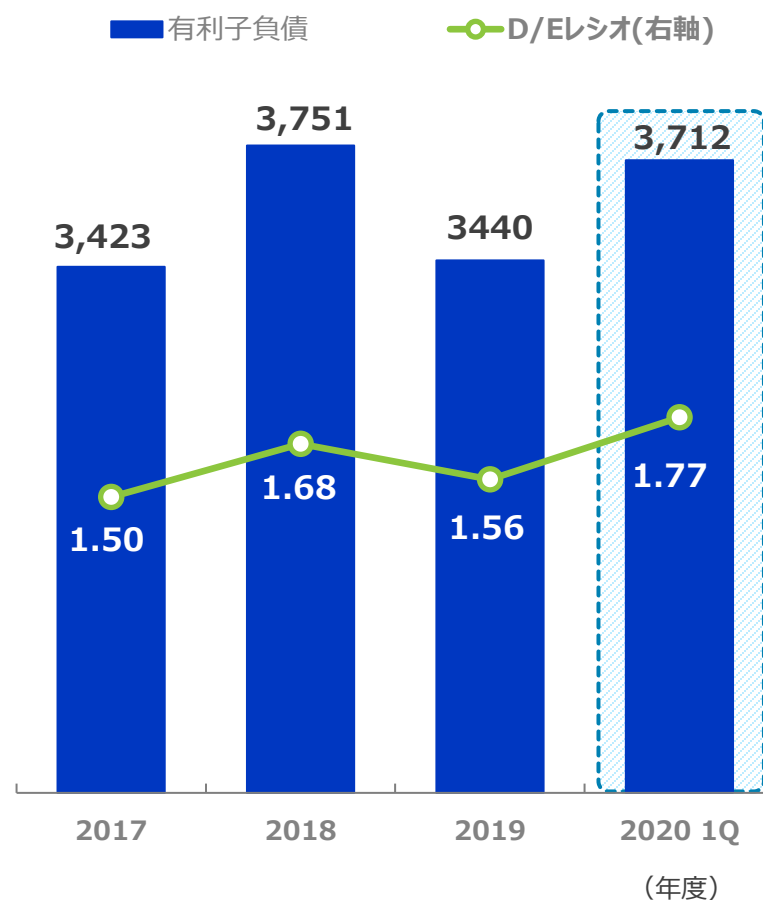
### 2020年度 第1四半期 連結キャッシュフロー

(単位：億円)

税引前利益	△ 0.8
減価償却費 (のれん含む)	82.5
棚卸資産増減	12.1
債権債務増減他	△ 104.8
<b>営業キャッシュ・フロー計</b>	<b>△ 11.0</b>
設備投資	△ 91.6
その他投資キャッシュ・フロー	2.3
<b>フリー・キャッシュ・フロー</b>	<b>△ 100.3</b>
配当	△ 9.6
現預金増減 (△は増加)	△ 161.6
<b>有利子負債の増加</b>	<b>271.5</b>

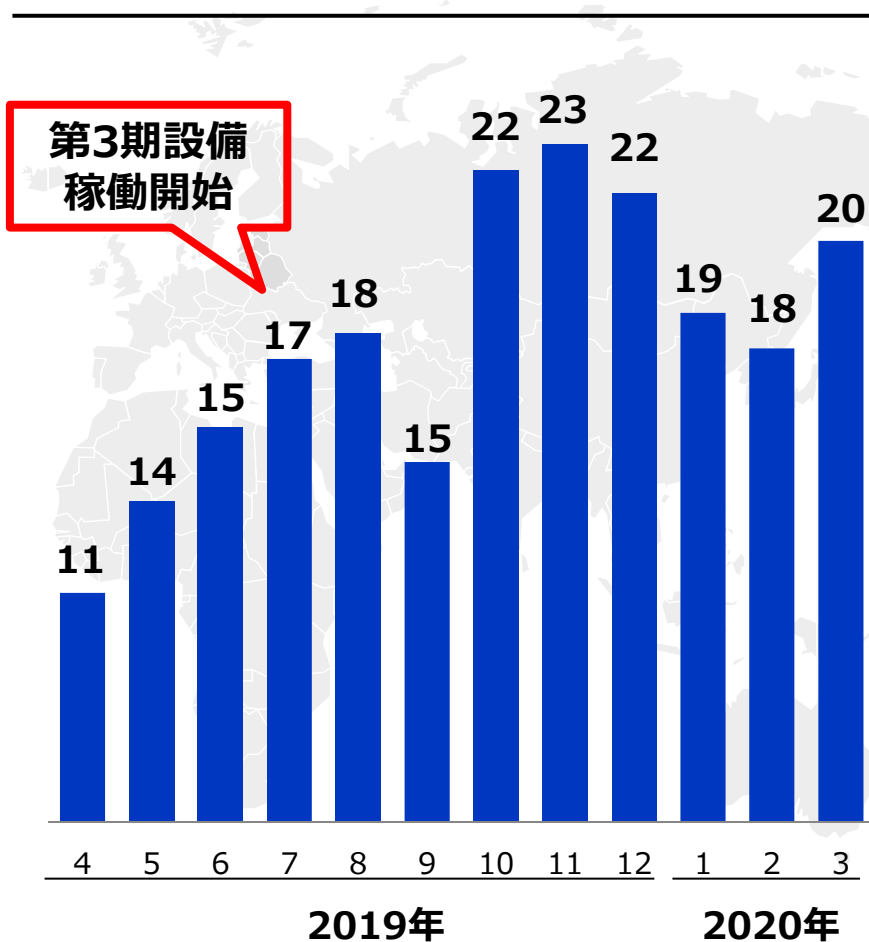
### 有利子負債残高・D/Eレシオ

(単位：億円)



## 1Q經常利益は計画を超過すると同時に、黒字達成

UATH 月次販売量 (単位: 千t)



## 1Q総括

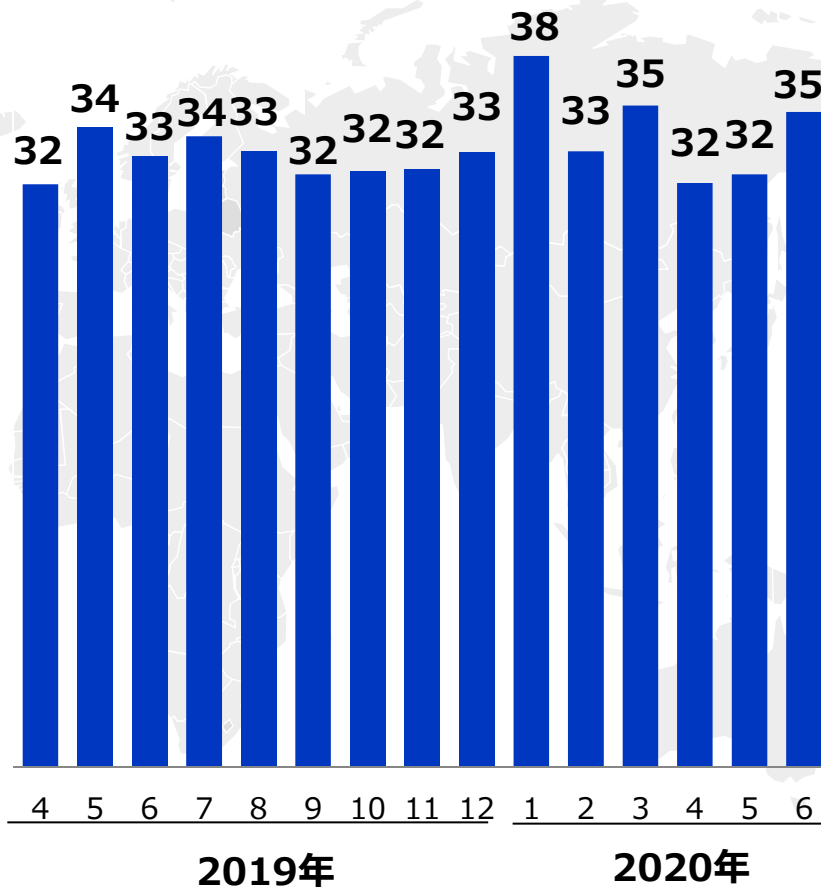
- ・缶材需要：1Qはコロナ影響は限定的  
2Q以降に発現
- ・生産量：約20千t/月 (1~3月)
- ・販売量：約19千t/月 (1~3月)

・損益：

	20年 1Q実績	19年 1Q実績	前年 同期比
売上高	189	145	43
営業利益	▲ 7	▲ 10	3
<b>經常利益</b>	<b>7</b>	<b>▲ 15</b>	<b>22</b>
棚卸影響前 經常利益	▲ 3	▲ 20	17

缶需要はコロナ禍で旺盛も、1Qは顧客の在庫調整影響を受ける

TAA 月次販売量 (単位: 千t)



## 1Q総括

- ・缶材需要：旺盛な需要環境継続
- ・販売量：約**33**千t/月 (4~6月)
- ・設備：新冷間圧延ライン稼働
- ・損益：

	(億円)		
	20年 1Q実績	19年 1Q実績	前年 同期比
売上高	289	324	▲ 35
営業利益	▲ 2	3	▲ 5
<b>経常利益</b>	<b>▲ 7</b>	<b>▲ 4</b>	<b>▲ 3</b>
棚卸影響前 経常利益	13	5	8

## 2. 2020年度通期業績見通し

## 2020年度 業績見通し

2020年度の通期業績見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染拡大による当社業績やアルミ地金価格等への影響を現時点で合理的に見積もることが困難であることから、未定といたします。

## 配当

通期業績見通し未定に伴い、配当につきましても引き続き未定といたします。

## 3. 新型コロナウイルスの影響と対応

## 新型コロナウイルスの影響による当社事業を取り巻く環境

**日本：** 国内経済活動が低迷しており、自動車・機械向けを中心に引き続き受注は低調

**北米：** 缶材は需要が供給を上回るなど堅調、自動車用部材も6月後半より徐々に回復

**アジア：** ロックダウン緩和も缶材を中心に本格的な需要回復には時間を要する

- 日本：**
- 缶材：イベント中止、外出自粛等の減少要因はあるが、家庭内消費の増加が寄与し微減
  - 自動車材：自動車メーカーの生産調整が影響、4月～6月は需要減。7月以降も回復不透明
  - IT材：在宅・テレワークによるパソコン需要の増加により、受注堅調
  - 厚板：液晶・半導体向けは上期は低迷も、5G関連の需要は底堅く、下期には回復を期待
- 北米：**
- 缶材：都市部ロックダウンにより家庭での飲料消費が急増し、需要が供給を上回る状況継続
  - 自動車材：州政府等の指示により、顧客生産工場の停止により需要減。新興EVメーカー等は6月以降回復基調
- アジア：**
- 缶材：都市部ロックダウンと酒類販売禁止等の影響により低調。緩和後も観光客減等の影響により景気は低迷しており、本格的な需要回復には時間を要する見込み
  - 自動車材：タイ、北米での自動車メーカー工場稼働一時休止の影響により需要減

## 直近の感染拡大傾向を受けて、社内体制の再整備を実施

### 生産体制に関する対応

- 影響の大きな自動車産業向けをはじめ、生産量減少対応として、5、6月に設備単位での生産の数日間の停止を製造所ごとに実態にあわせて実施
- 各製造拠点での感染者発生を想定した代替生産プラン準備等、リスク管理体制の強化

### テレワークや在宅勤務の活用、海外拠点对応

- 営業、管理部門等は概ね30%以下の出勤率を目途に、仕事の仕分けと改革を推進
- 必要なインフラの整備、セキュリティ拡充を行い、外部からの脅威に対応
- 海外赴任・再入国については、赴任地域の感染状況・医療状況をふまえつつ、長期化を見据え、各国・各地域の入国制限措置、入国後の行動制限措置等に即して実施中（中国、タイ、メキシコ等）

### 資金需要に対する対応

- 新型コロナウイルス感染拡大に備えて、資金の積み増しを実施
- コミットメントライン：430億円（未使用）



## 最前線で奮闘する医療機関などへの支援を拡大

- 尾池工業株式会社と共同で、名古屋市立大学病院、東部医療センター、西部医療センターの名古屋市内3医療機関に、当社共同研究開発の抗菌透明銅フィルムを用いた、飛沫感染対策用フェイスシールド計1,000個とフェイスシールド向け銅フィルム計3,000枚を寄付
- 愛知県立港養護学校、埼玉県深谷市に当社グループ製のアルミ合金製台座を採用した、飛沫感染対策用アクリルパーテーション合計60台を寄付
- グループ従業員の感染防止の環境を整えながら、厚生労働省を通じて医療機関へN95マスク、拠点所在の県・市へのサージカルマスクを寄付



<アルミフレームと銅フィルムを組み合わせたフェイスシールド>



<名古屋市病院局からの感謝状贈呈式の様子>



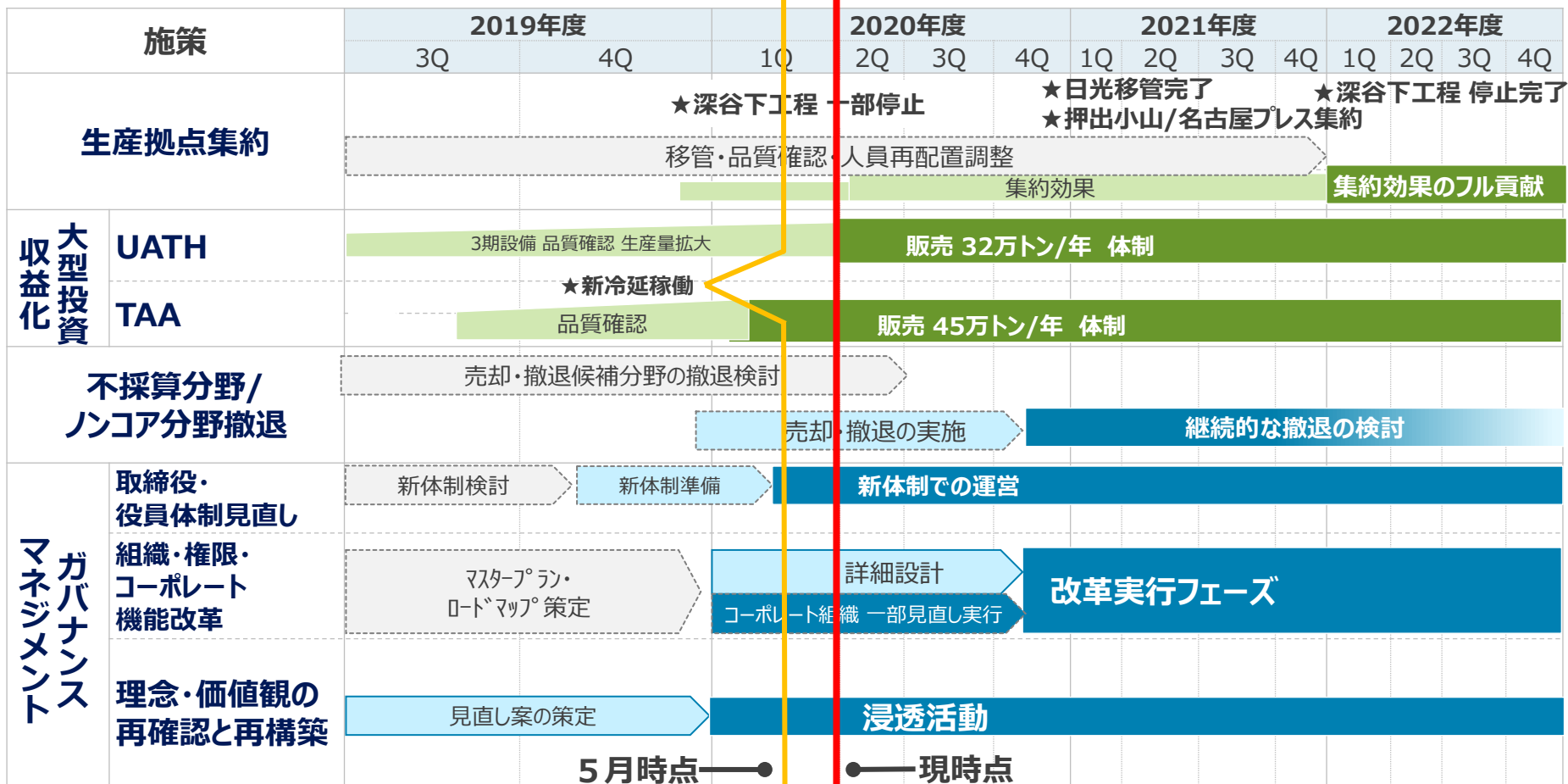
<飛沫感染対策防止用パーテーション>

## 4. 構造改革の進捗

## 構造改革の各施策はロードマップに沿って計画通りに進捗

### 概ね計画通り進捗

稼ぐ力の向上/財務体質の改善/経営のスピードと質の向上



5月時点

現時点

## 生産拠点の集約は概ね計画通り進捗

### 方針

生産拠点の集約化による  
固定費削減・稼働率向上

### 施策

深谷製造所下工程停止  
→名古屋・福井へ集約

日光製造所閉鎖  
→自動車熱交材のUMP\*への集約

押出小山/名古屋  
→プレス集約と最適化

製箔 アルミ箔圧延の生産効率化

### 1Q進捗

一般材の名古屋製造所への移管をスタート  
(一部停止: 2019年4Q / 停止完了: 2021年4Q)

自動車熱交材のUMP集約に向けて顧客と協議継続  
(移管完了: 2020年4Q)

名古屋製作所の最新鋭プレスの活用  
および品種移管による最適生産をスタート

滋賀工場のアルミ箔圧延休止 (2020年10月)

# 選択と集中（不採算分野/ノンコア分野撤退）

国内・海外共に採算性・効率性の観点からの事業再編を継続検討

## 方針

低採算分野の是正・撤退

## エリア

## 1Q進捗

国内事業



UACJ金属加工 大阪工場を閉鎖（2021年3月）

海外事業



インドネシア押出合弁事業解消が新型コロナウイルス感染拡大の影響により、譲渡手続き遅延（2020年6月予定→10月目途）

## コーポレート機能の強化とコスト低減の取り組みは概ね計画通り進捗

### 方針

BPR\*の実施及び、システム・インフラ整備による間接部門の業務効率化とスリム化

### 施策

BPR 実施により間接部門のスリム化



国内各拠点で部門毎の業務ヒアリングにより、部門毎の課題（重複業務等）の洗い出しを実施

システムインフラ整備によるデータ連携の向上とデジタル資源の活用



業務プロセスの刷新を目指し、ERP等のITツールの導入を検討中

### 1Q進捗

注力分野の商材拡販、主要品種の価格適正化に加え、国内4製造所のモニタリングを強化

## 方針

価格適正化、品種絞り込みによる採算性向上  
最適生産体制構築による変動費の削減

## 施策

注力・成長分野向け商材の重点販売



## 1Q進捗

缶材、自動車材、電池材など注力商材の  
重点販売を実施

主要品種の価格の適正化



一部品種について価格適正化を実施

国内4製造所の生産状況の  
モニタリング強化



「コスト削減」、「生産性向上」、  
「拠点間輸送を伴う生産量の低減」等の目標値  
の徹底管理とフォローを強化

従業員との「対話」を通して新・企業理念に込めた思い、目指す姿の浸透活動をスタート



## 企業理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。

## 目指す姿

アルミニウムを究めて環境負荷を減らし、軽やかな世界へ。

## 価値観

- ▶ 相互の理解と尊重
- ▶ 誠実さと未来志向
- ▶ 好奇心と挑戦心

国内の製造拠点で、  
**社長との直接対話会を開始**  
今後グローバルに展開予定



**アルミニウムを究めて  
環境負荷を減らし、  
軽やかな世界へ**





日系アルミニウム圧延メーカーで初、Aluminium Stewardship Initiativeに加盟



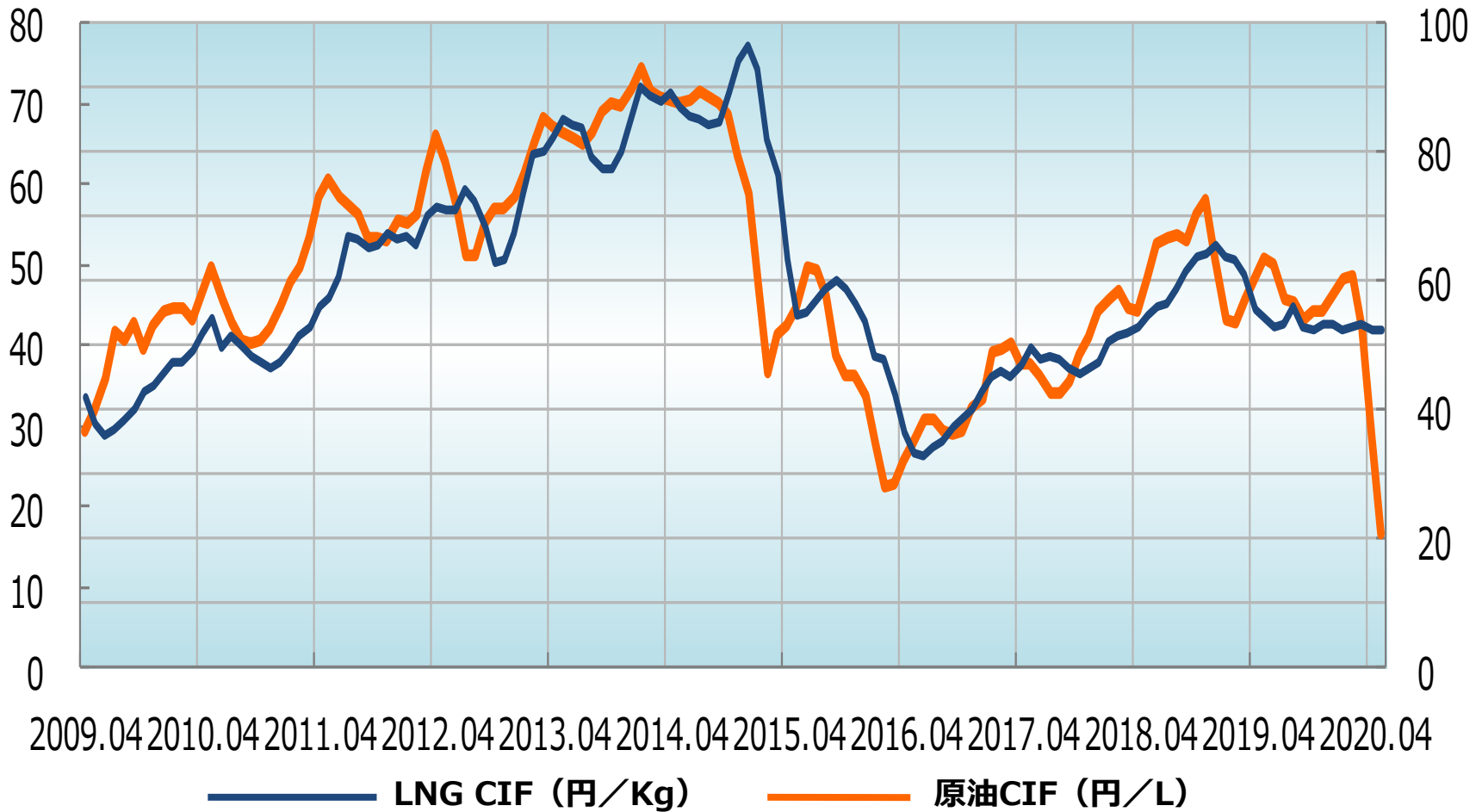
アルミニウムのサプライチェーン全体におけるサステナビリティへの取組向上、ESG観点からの社会貢献を最大化することを目的とした国際イニシアチブ

当社はASIに加盟することで、企業理念にある「素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する」ことを目指し、アルミニウム業界のグローバルスタンダード策定にも積極的に関与して、事業へのフィードバックを行います

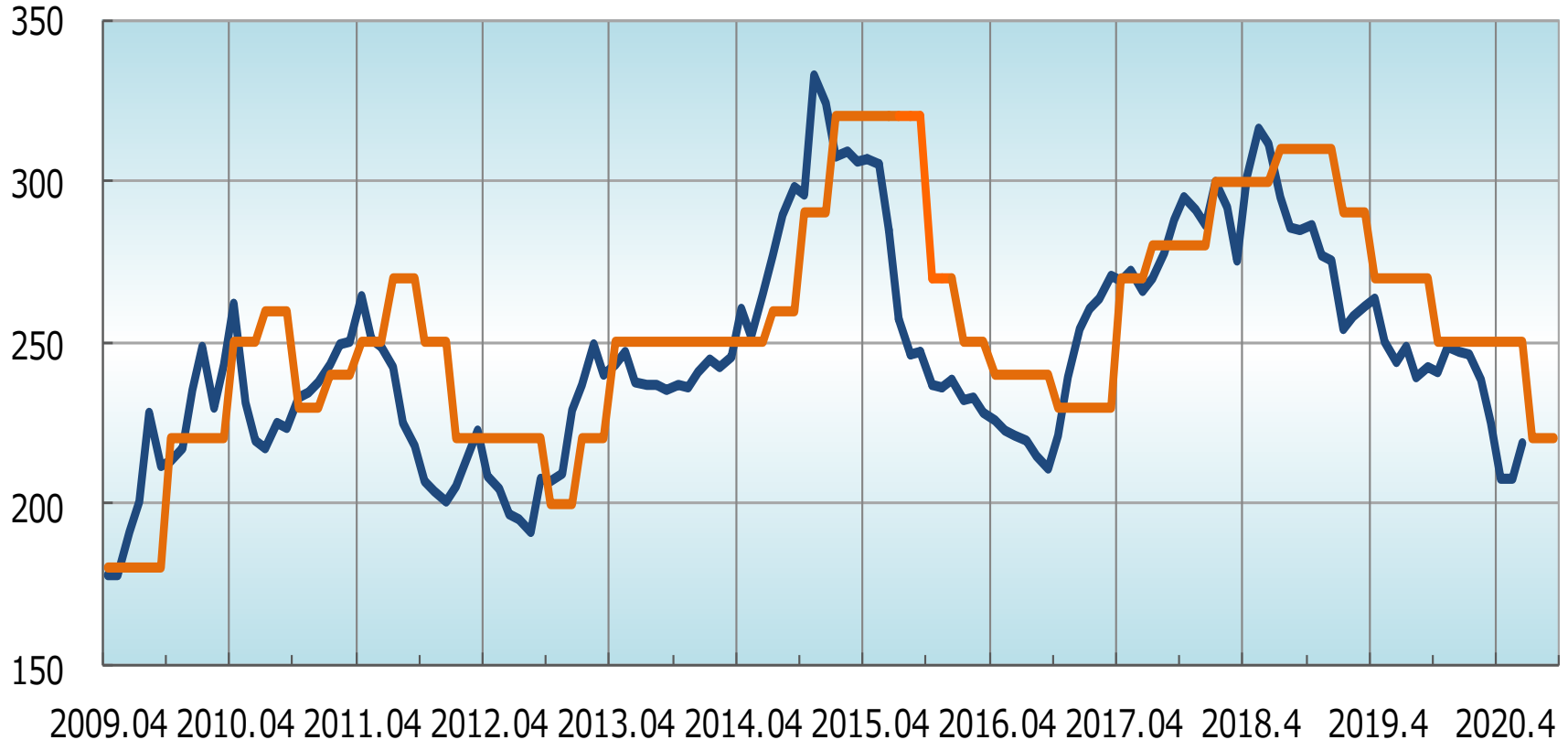
# ご参考データ

原油 CIF  
(円/L)

LNG CIF  
(円/Kg)



(円/Kg)



— アルミ日経市況

— アルミ基準地金

	2019年度 (実績)	2020年度 (6月末)	経常利益への 感応度
アルミ地金 日経平均 (円/kg)	245	220	10円/kg上昇した場合 → +20～+30億円/年
LME (米\$)	1,749	1,588	\$100/t上昇した場合 → +22～+35億円/年
為替 (円/米\$)	109	107	ほぼ影響なし  ・燃料単価、添加金属：円高が有利 ・ロールマージン、為替換算差：円安が有利
為替 (円/タイバーツ)	3.5	3.4	
原油 (ドバイ：米\$)	60	39	10ドル上昇した場合 → △10～△15億円/年

## 将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があり、確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

## 著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料ならびに I R 関係の問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

コーポレートコミュニケーション部 TEL : 03-6202-2654 FAX : 03-6202-2021

URL : <http://www.uacj.co.jp>

(東証1部 コード番号 : 5741)